



map

ーホルンなどの4千メートル級の峰が連なる。ここから標高3089mのゴルナーグラード展望台に行く登山電車がでてい。沿線の眺めも良く所要時間は40分。展望台からは西に三角のマッターホルンがそびえ、目の下にはゴルナー氷河が伸びている。このほかいろいろなルートで行ける展望台がいくつもある。

ツェルマットの標高は1620m。街の所々からマッターホルンを見ることが出来る。街の中をマッターフィスパ川が通り、ゴルナー氷河などからの真っ白な雪解け水が勢いよく流れている。宿泊したホテルは川のすぐそばにあり、その橋がマッターホルンの絶景ポイントになっていた。早朝、朝焼けのマッターホルンを見るために多くの人が集まる。2泊したが、2日とも天気が良く朝日で黄色く光る山を見ることができた。

橋からとところどころベンチがある川沿いに10分さか

のぼって歩くと、マッターホルン・グレーシャーパラダイス行きのリフト乗り場に行けるし、下流に同じく10分歩けばスネガ行きのケーブルカー乗り場に出る。

街では自動車の通行が禁止されている。自動車で来た人は、一つ前のテーシュ駅の駐車場に車を置き、電車でツェルマットに来ることになり、駅前にはホテルの送迎やタクシーなど小さい電気自動車が客を待っている。小さな街を巡るのは歩きで十分で、駅から南に行く目抜き通りのバーンホフ通りにはスイス特有の山小屋風5～6階建ての建物が並び、ホテル、お土産や、レストランなどが入っていて、各階は花でいっぱい飾られている。

氷河特急で旅立つ日の朝、ホテル付近を散歩していたら、ゴミ収集車を見つけた。この車はどうもディーゼルエンジンで動いているようで、電気自動車では難



写真ー2 ツェルマット バーンホフ通り



写真ー3 マッターフィスパ川とマッターホルン

しいので例外として存在するのであろう。

4. マッターフィスパ川

北上する川はフィスプで東から流れてくるローヌ川に合流し、西に向かい、ジュネーブのあるレマン湖に入る。レマン湖は長さ100kmもあり、南側はフランス領の国際湖沼で、ローザンヌやエヴィアンも湖畔に。西端のジュネーブから流れ出したローヌ川はフランス南部を流れ、リヨンを通過して地中海に注ぐ。

5. 氷河特急の旅ー1

ツェルマット発氷河特急4本の最終である10:13に発車した。明るい内に旅程を楽しんでもらうためか、これより遅い氷河特急列車はない。駅内は各国語で「ようこそ」の文字が書かれ、日本人が多いのであろうか、たしか日本語でも放送していた。はじめ列車は北方向にマッターフィスパ川の渓谷に沿ってどんどん降りていく。



写真ー4 ヴァイスホルンとビス氷河

乗車した車両は最後部一等車で、前がJTBツアー、後ろがユーラシアツアーと日本人ばかりであった。窓が大きいパノラマカーで、景色はいいが、問題は写真を撮るときに車内が明るいので椅子とか、人が写り込まれてしまうことであった。特に座席背もたれの赤い色が問題で、このために撮影にずいぶん苦労した。

幸いなことに最後部に連結用のドアがあり、ガラスがはめ込まれていて、そこから展望車からのような写真を撮ることができた。列車はマッターホルンより高いヴァイスホルンの東を通過していく。ほんのちょっとであったが、ヴァイスホルンとビス氷河を拝むことができた。その少し先ではヘルプリンゲンの大崩落現場



写真ー5 マッターフィスパ川の谷を走る

の横を通る。ここは1991年突然大崩壊を起こし、川、鉄道、道路を埋め尽くした。大きな水溜まりができたためスイス軍が出動する事態に。崩壊現場は縦横800mもある大規模なものである。

列車は川のすぐそばを走ったと思うと、深い谷の上を走ったりして高度を落としていく。

マッターフィスパ川はシュタルデンでサーサーフィスパ川と合流しフィスパ川になる、列車はその後ヴィスプまで川と併走する、ここでフィスパ川は東から来るローヌ川に合流し西に向かう。列車は逆に東にローヌ川を遡っていく。ローヌ川も真っ白な流れであった。

これは大アレッチ氷河と上流のローヌ氷河からきているらしい。

ローヌ川を少しさかのぼるとブリークに。ここからはシンプロントネルを通過してイタリアに行く幹線が通っている。その後ローヌ川に沿って上りになるが、ここでは北5kmのところの長さ23kmで欧州最大のダアレッチ氷河が流れている。ダアレッチ氷河は北側のユングフラウヨッホ展望台からその大きさを実感する



写真ー6 珍しく直線の区間
右の山の向こうにはアレッチ氷河